

事業の名称等
令和3年度もりの学舎ようちえん



ねらい

四季を通じて自然を体感し、親んでもらう。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ（きっかけ）とする。

学習者の状況

自然体験をほとんどしたことがない。
保護者が子どもに自然体験をさせたくても、やり方が分からない方が多い。

成果指標

四季を通じて自然を体感し、親しむことができたか。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ（きっかけ）ができたか。

- 取組の内容**
- 1 森の危険な生きものを紹介するなど、自然に親んでもらうところからスタート（5月）
 - 2 生きものにふれる、森にある物を使った工作、森のめぐみの試食などにより、四季を通じた自然体験を行う（7月～1月）
 - 3 まとめ（3月）

工夫

「森の危険な生きもの」
…ハチに遭遇したときの対処方法を「ハチさんが飛んできた！」という遊びを通して楽しく練習。 **ゲーム化**

「初夏のしぜんおさんぽ」
…モールで作った人形「もりんちゅ」と一緒にもりの学舎周辺を散歩。もりんちゅの視点で自然を観察し、新たな発見につながぐ。 **本物体験** **共感・納得**

学習者の反応



ハチが飛んできた時には、動かないようにするよ！




葉っぱの裏で何か動いたみたい。
あっ、小さな虫がいたよ！

学習の効果&主に育まれる力

森に入るときに注意することを学ぶことで、安全な過ごし方を知ってもらうことができた。


普段とは異なるもりんちゅの視点で森を散歩することで、生きものや植物への興味を高めることができた。




「冬のお森のおさんぽ」
…冬という危険生物に遭遇しにくい季節を活かし、森の中を散歩。途中で落ち葉を集めたり、大きな葉っぱを飛ばしたり、冬のお森を満喫。 **本物体験** **見守り**

「春をみつける」
…森が春を迎える準備をしていることを、春をみつける散歩や春の色の草木染めを通して体感。プログラム終了後も自然への興味が持続するような呼びかけ。 **本物体験** **見守り**

いろいろな落ち葉があるね！
この葉っぱのほうが大きいよ！





カエルの卵がある！オタマジャクシもいるね。
小さな花が咲いているよ！



森に入る機会がほとんどない冬でも、自然遊びを通して、新たな発見や楽しさを肌で感じる事ができた。

もりの学舎周辺での自然体験をきっかけにして、今後の自然とのふれあいにつなげられるようにすることができた。

令和3年度もりの学舎ようちえん

- 平成28年度から4歳以上の未就学児向けにももりの学舎で実施している事業。
- もりの学舎の環境を活かして、森の案内人「インタープリター」とともに、大人と子どもと一緒に自然や生きものとふれあうことができる、全6回のプログラムである。



学習者の変容

【保護者へのアンケート結果より】
[当日アンケート結果より]

- 川魚をとることが初めてで楽しかった。
- なかなか家庭でできないスプーン作り、風呂敷染め、森の散策と、1年間親子ともに楽しむことができた。

[半年後アンケート結果より]

- よく観察することへの興味が芽生えた。インタープリターとの交流がとても刺激になった。
- 葉っぱの色や形などの細かい部分に注目するようになった。

(子どもの行動や発言についてわかるほどの変化を約78%の保護者が感じていた。)

成果と課題

【成果】

- 四季を通じ、工夫を凝らした自然体験の場を提供することで、自然に親んでもらうことができた。
- 本事業参加後、子どもの自然体験の回数の増加や継続が見られた。
- 自然に関する子どもの行動や発言に変化が表れ、また、保護者自身も子どもと一緒に自然の大切さについて考えるきっかけとなったと推測できる。

【課題】

- 子どもや保護者自身に対し、プログラム終了後にも、自然の大切さを考えてもらえるような働きかけをする必要がある。

事業の名称等
令和4年度プラザ環境学習講座



取組の内容	
1 導入	いま地球上でどんな問題が起きているのか、また、何が原因なのかについて伝える。
2 展開	簡単な実験や工作などを行い、体験を通して環境問題についてより分かりやすく伝える。
3 ふりかえり	学んだことをふりかえり、普段の生活の中で自分にできることを考え、発表し、共有する。

ねらい

自然、生きもの、ごみ、水、地球温暖化などの環境問題について、体験型の学習講座を通して理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげてもらう。

学習したことを家族や友達に話すことで、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとする。

工夫	
1 導入	<p>現実には起きている問題をイメージしやすくするため、写真や映像を使って説明。</p> <p>身近で考えられる問いかけ（例「朝起きてから今の時間までに何に水を使ったか？」など）やクイズを交えながら、環境問題は身近な問題であることを説明。</p> <p>♡ 見守り ♡ ゆさぶり</p>
2 展開	<p>環境問題への関心をより高めるため、普段体験できないような内容の実験や工作など、印象に残る体験を提供。</p> <p>見たり、聴いたり、触ったり、感じたりして体感することで、驚きや発見を生み、環境問題のしくみ（水がなぜ汚れるのか）等をより分かりやすく、自分事として捉えられるようサポート。</p> <p>♡ 驚き・感動 ♡ 本物体験</p>
3 ふりかえり	<p>身近に多くのエコアクションがあることに気づき、行動する意欲につなげるため、講座で学び、体験したことを振り返り、「わたしたちにできることは何か？」と問いかけて発言を促し、皆で共有。</p> <p>家庭や地域へ環境を守る行動「エコアクション」が広まるよう、最後に、「帰ったら、家族や友達に今日学んだことを話してね」と呼びかけ。</p> <p>♡ 共感・納得 ♡ 成果実感</p>

学習者の状況

環境問題について聞いたことはあるけど、詳しくは知らない。

知識はあるが、「エコアクション」にまで結びついていない。

そもそも環境問題について聞いたこともない。

学習者の反応	
1 導入	<p>「温暖化がどんどん進んでいることを改めて学ぶことができた。」</p> <p>「クイズがおもしろかった。」</p>
2 展開	<p>「実際の木の幹の太さを測ってCO₂の吸収量を知ることができて、木の大切さを改めて感じた。」</p> <p>「顕微鏡でヨーグルトのふたの裏を見たら、さといもの葉っぱ同様の細かいでこぼこがあり感動しました。」</p>
3 ふりかえり	<p>「地球温暖化を防ぐ努力を家庭でも気を付けながら取り組んでいきたいと思った。」</p> <p>「田んぼなどでカエルを見つけたら、どの種類か見分けてみたい。緑や自然の大切さを改めて考えさせられた。」</p> <p>「日頃から自然の中で疑問に思ったことは調べてみようと思った。」</p> <p>「SDGsをもっと意識しようと思った。」</p>

成果指標

環境問題について理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげることができたか。

学習したことを家族や友達に話し、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとなったか。

学習の効果&主に育まれる力	
1 導入	<p>環境問題が身近な問題であること、世界中で様々な環境問題が起きており、多くの人や生きものが困っていることを実感しながら、自分たちの生活との関係に思いを巡らすことができた。</p> <p>理解 体感 共働 探究 活用</p>
2 展開	<p>体感することで、好奇心を高め、さらに、こうしたらどうだろう、もっと知りたいという探究心が高まった。</p> <p>理解 体感 共働 探究 活用</p>
3 ふりかえり	<p>自分にできることは何かを考えて気づくことができた。</p> <p>他の人の意見を聞くことで、自分では気づけなかった、環境を守るためにできることがたくさんあることに気づくことができた。</p> <p>学んだことを話すことで家庭や学校、地域でのエコアクションを広めるきっかけとなった。</p> <p>理解 体感 共働 探究 活用</p>

■令和4年度プラザ環境学習講座

・あいち環境学習プラザにおいて、主に小学生向けに、地球温暖化、生物多様性、水やごみなどの環境問題について、実験や工作を交えた体験型の学習講座を実施。



学習者の変容

【児童へのアンケート結果より】

- 参加する前までは、カエルやイモリは苦手だったが、講座に参加してみて、イモリやカエルのことを知ってみると親近感がわき、生きものを大切にしたいと感じた。
- 疑問に思ったことをどのようにして研究調査をして、試して結論を導き出すかというやり方が、ムササビのこととともによくわかった。

【依頼者（教師等）へのアンケート結果より】

- 節水を心がけている様子が学校生活の中でも見られるようになった。
- エコアクションに書いたことを学校でやっている子がいた。

成果と課題

【成果】

- 環境問題は身近な問題であることを理解してもらい、自分たちにできることを考え、行動に移す意欲を育むことができた。
- 夏休み講座では自然や地球温暖化など、多岐にわたる分野を取り上げ、各分野への理解を深めてもらうことができた。

【課題】

- 令和4年度に、中学生向けのプログラムを作成・拡充したが、今後も講座の内容について社会情勢の変化等に合わせ、更新をしていく必要がある。

事業の名称等

令和4年度あいちの未来クリエイト部



取組の内容

- 1 キックオフミーティングで活動のオリエンテーションを行い、今後に資する講義を受講後、活動内容を検討（6月）
- 2 専門家の支援を受けてフィールド調査やデータ分析等の調査・研究を実施（7月～11月）
- 3 調査研究発表会（中間発表会）を実施（11月）

ねらい

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育む。
- ・高校生が仲間とともに自分たちで考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育む。

工夫

- ・アドバイザーや講師から、伝えたいことをわかりやすく他者に伝えるコツや話し合いのコツについて講義を受け、活動開始の準備をサポート。
- ・質疑応答の時間を設けて発言を求めることで、積極的な参加を促進。
共感・納得
- ・ファシリテーターがサポートしつつ、高校生中心で今後の活動内容を検討。
見守り
- ・高校生が主体的に調査・研究を行えるよう、高校ごとにテーマに沿った専門家が必要に応じて助言。
共感・納得
本物体験
驚き・感動
- ・調査・研究を振り返り、活動内容の理解を深めるため、成果を披露する調査研究発表会を実施。
- ・調査研究発表会に過去の参加校も出席し、研究発表や交流の機会を提供。
成果実感

学習者の状況

- ・環境への興味や活動レベルは様々である。
- ・どのように調査に取り組みばよいのかわからない。
- ・顧問の指導に従い、活動に対して受け身の態度の生徒が多い。

学習者の反応

- ・最初は何をするか不安だったが、講義を受けて今後の活動のポイントがわかった！
- ・講義の内容を消化して、質疑応答の時間に質問することができた！
- ・どのような内容でこれから調査・研究を進めていこうかな？
- ・専門家の意見を聞くことで、調査・研究検討の議論の幅を広げることができた！
- ・今までに体験したことがないことができて、とても良い経験になった！
- ・他校の発表を見ることで、刺激を受けて、今後の調査・研究の発展や教材作成に向けて、より良いアイデアを練ることができた！
- ・ステージでの発表は緊張したが、聞いてくださった皆さんに学んだことを伝えられた！

成果指標

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育むことができたか。
- ・高校生が仲間とともに自分たちで考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育むことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・講義の内容から、今後の自分たちの活動の進め方を具体的にイメージしやすくなった。
- ・自分の考えや疑問を発言する機会が積極性を育んだ。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**
- ・調査・研究の内容や方向性を自分たちで決定することで、興味関心を高めた。
- ・体験から自ら感じ、学ぶことができた。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**
- ・専門家からアドバイスもらえるという貴重な体験を通して、自信がついた。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**
- ・発表に向けて自分のこれまでの活動を振り返ったり、発表を聞いた人から感想や質問等をもったりすることで、新たな気づきや課題を見つけることができた。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**

4 調査・研究の成果を基に、誰に何を伝えたいか話し合い、意見をまとめた環境学習教材を作成し、実践（12月～3月）

・調査・研究で得た知識を基に、伝える対象・内容を意識して教材の作成を進められるよう、ファシリテーターが支援。



・作成した教材を体験した周囲の人から、感想や改善点をフィードバック。



・教材作成は、案がまとまるのは意外と早かったが、実際に作ってみるとやるが多すぎて大変だった！



・自分達の作った教材をたくさんの人に楽しく遊んでもらえてうれしかった！



高校生が自ら考え、仲間とのディスカッションを行いながら、学んだ成果を教材という形にできた。



5 活動報告会を実施（3月）

・調査研究成果とそれをもとにした教材を発表し、実際に教材を体験。

・大学生やあいち eco ティーチャーとの交流会を行い、世代間の交流の場を創出。



・スライド発表で質問してもらうことで新たな発見ができた。教材体験の説明が上手くいくか不安だったが、楽しんでもらえてそれで良かった！



・大学生もあいち eco ティーチャーも私たちが持っている以上の知識があり、とても勉強になることが多かった！



教材を活用し、学びを周囲に広げることができた。



■令和4年度あいちの未来クリエイト部

高校生が、専門家の支援を受けて地域の環境問題に関する調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成するとともに、その教材を活用し、普及啓発する。



学習者の変容

【高校生へのアンケート結果より】

- ・自分から意見を交わし、わからないところを調べていく積極的な姿勢が身についた。
- ・周りの意見を吸収してより良いアイデアを出すように努力することができるようになった。

【顧問へのアンケート結果より】

- ・引っ込み思案な生徒が多かったが、人前で話すことに自信が持てるようになった。
- ・意見を積極的に出そうとする姿勢が見られるようになった。また、根拠を持って話すことができるようになった。

成果と課題

【成果】

- ・活動の中で課題を見出し、それを解決するための調査・研究を検討して実践することにより、課題発見能力や解決能力が育まれた。
- ・自分の考えを積極的に述べ、仲間と協力しながら取り組むことができるようになり、主体性や協調性の向上につながった。
- ・令和3年度に「過去参加校との交流の機会を設ける等、活動を継続・発展させる工夫を実施しているが、不十分な状況のため、さらなる工夫が必要である」という課題を挙げていた。この課題に対し、令和4年度は活動報告会で大学生やあいち eco ティーチャーとの交流を行うことで、世代間の学び合いを行った。

【課題】

- ・令和4年度の事業終了後に教員に対してアンケートを行ったところ、「専門家の支援が受けられる」ことを期待していた教員が多かった。令和5年度の事業では、調査・研究時に生徒と専門家の接点をさらに増やすことができるようにしたい。

事業の名称等

令和4年度
かがやけ☆あいちサステイナ研究所



取組の内容

1 開所式で、学生、パートナー企業等との顔合わせ、活動や課題の説明等を実施（6月）

2 環境問題やSDGs、課題解決に関する基礎講座を受講（7月）

3 研究所活動として、企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッション、チームミーティングを実施（8月～11月）

ねらい

○持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育む。

○参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促す。

工夫

○愛知県知事の激励により士気を高めるとともに、学生、パートナー企業、ファシリテーターとの顔合わせ、活動や課題の説明等を行い、研究所活動を円滑に開始できるような機会を提供。

見通しOK

○今後の環境課題研究を行うに際し必要な知識や理解を深めるため、SDGsや課題解決の考え方の参考となる講座を実施。

○昨年度の修了生から経験談や心構えを聞くことで、全体の活動のイメージをサポート。

共感・納得
ゆさぶり

<課題研究>
企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッションにファシリテーターを交えることで、学生のインプット及びアウトプットが大きくなるよう橋渡し。

本物体験 **驚き・感動** **見守り**


<チームミーティング>
解決策を作り上げるためにチームミーティングを実施。適切なタイミングでファシリテーターが助言を行うことで、学生の考えをうまく引き出し、議論が円滑に進むよう支援。

学習者の状況

○これまでに習得してきた知識やスキルを社会でどのように活用していくか、まだ具体的なイメージがわいていない様子である。

学習者の反応


最初は不安だったが、学生同士で交流を行うことで、モチベーションの上昇や関係構築につながった！




環境やSDGsに関する知識が深まった！



現場に行くと、企業が実際にやっている取組を体感できる！



チームでミーティングを行い、解決策に向けた議論を深めていった。時間が足りない！




成果指標

○持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育むことができたか。

○参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促すことができたか。


学習の効果&主に育まれる力

○全体のスケジュールを理解し、期間内にやるべきことを順序立てて具体的にイメージできた。




○これから解決策を検討していくために必要な知識やスキルを習得した。

○さらに必要なことについては自ら学習するなど、主体性を育んだ。



○実際に現地を調査し、企業担当者と議論することで、課題の意味を深く理解し、課題の解決がどのように持続可能な社会の実現につながるかに気づいた。

○チームミーティングを重ねることで、解決策に向けた議論を深めると同時に、様々な視点で物事を考える力が育まれた。



<p>4 成果発表本番に向け、中間発表会を開催（10月）</p>	<p>○成果発表会に向けたプレゼンテーション練習を実施し、出席者からのフィードバックを踏まえ、研究成果のブラッシュアップ等を促進。</p> <p>共感・納得 ゆさぶり</p>	<p>練習会は他チームからの意見やプレゼンテーションの方法など、成果発表会に向けてとても参考になる！</p> 	<p>○他者の意見により、新たな課題に気付くことができた。また、相手にわかりやすく伝える能力が育まれた。</p> 
<p>5 成果発表会・修了式で、研究所活動の成果である解決策を提案（12月）</p>	<p>○提案した解決策をパートナー企業が評価。</p> <p>○審査員による審査と合わせてオーディエンス賞を設け、来場者の参加性を高めることにより、来場者に伝わりやすいプレゼンテーションを行うよう学生に促進。</p> <p>成果実感</p>	<p>○チームみんなで考えたアイデアや発表の工夫がパートナー企業や来場者に伝わるといいな！</p> <p>○大勢の前での発表は緊張したが、今まで取り組んできた成果を練習したとおり発表できた！</p> 	<p>○企業からの評価や審査員からの講評を受け、これまでの活動を振り返ることで、課題解決に必要なスキルや他者への伝え方の改善点を見つけることができた。</p> 
<p>6 県内の大学等で出張成果発表を実施（2月）</p>	<p>○学生自身の知識の習得や理解の増進、チーム内での研究だけにとどまらず、これまでの研究成果を発信。</p> <p>共感・納得 成果実感</p>	<p>ともに行動する仲間を増やしたい！</p> 	<p>○研究成果を広く発信することで、自身の活動の成果を実感し、継続的なエコアクションの実施につながった。</p> 

■令和4年度かがやけ☆あいちサスティナ研究所

パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施し解決策を研究する。解決策を企業側に提案し、活動の成果を広くPRする。



学習者の変容

【学生へのアンケート結果より】

- ・初めて企業と連携した取組を行ったため、責任感や計画性を持って進めることができた。全体を通して、誰かに効果的に伝える方法等、多くの経験をさせていただくことができた。
- ・違う大学の学生でチームが構成されていたことや、基礎講座での他チームとの交流により、普段関わらないような学部の方から新しい発見や学びを得られ、楽しかった。参加する前はSDGsを何となくしか知らなかったが、参加後は自分事のように考えやすくなったし、普段の生活でも何かできることはないか自主的に考えるようになった。

【パートナー企業へのアンケート結果より】

- ・学生の新鮮な視点で企業が抱える課題を見直していただき、企業の中だけでは気づかなかった社会一般、特にZ世代の課題の捉え方に気づくことができた。

【ファシリテーターへのアンケート結果より】

- ・学部や文化の異なるチームメンバーが意見を出し合い、それぞれの視点で感じたアイデアが反映されていた点良かった。

成果と課題

【成果】

- ・企業から提示された課題の解決策を研究し、提案することで、知識やスキルを習得するだけでなく、活用する能力が育まれた。
- ・企業によっては提案された解決策を採用し、実施する見込みである。
- ・学生の柔軟な発想や考え方を取り入れることができ、本業とのシナジーにもなる。
- ・前回（令和3年度）の課題である「学生がチーム内だけでなく他のチームのメンバーと交流する機会を増やすことで、様々な視点から課題を理解できるようにする必要がある」については、今回（令和4年度）、7月に実施した基礎講座においてチームをシャッフルしてのグループワークの時間を新たに設けており、改善できている。

【課題】

- ・学生が課題解決に向けた活動を実施したり、チーム間での交流・意見交換を行ったりするための機会をより充実させることで、熟度の高い提案を行えるようサポートしていく必要がある。

事業の名称等

令和4年度環境学習コーディネート事業

取組の内容

1 環境学習に関する相談・講師の依頼

2 依頼内容に応じ、講師や施設等を提案

3 学習日程や学校等の授業の目的に合わせたプログラム等の事前調整

ねらい

環境学習を受けたい方と、環境学習を提供できる方の橋渡しを行うことで、県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習ができるようにする。

(コーディネーターの)工夫

学校、行政、事業者など依頼者の主体に合わせて、あいち環境学習プラザに相談するメリットを紹介したチラシを作成し、Web ページ等で周知。
過去のコーディネート事例を Web ページに掲載。
あいち環境学習プラザの来所者（社会見学申込者等）へ、コーディネート事業の説明を実施。

共感・納得

依頼の目的や学習の目標、授業内容の希望等を詳細にヒアリングすることにより、ニーズに合った講師や施設等を複数提案。
コーディネート終了後も依頼者と講師が関係性を保てるよう、コーディネーターが同席して打合せを行うことで早期に信頼関係が構築できるよう配慮。

共感・納得

依頼者と講師の双方と連絡を密にし、信頼関係を構築することで、講師が安心して授業に臨めるよう調整。
依頼者に対して、一過性の授業で終わらないように、事前・事後の学習の実施や、他の教科、総合学習との連携について提案。
講師が依頼者の求める内容をプログラムに取り入れることができるように、依頼者からヒアリングした内容を講師に伝えるとともに、より良い授業となるよう、伝えてほしい事や工夫する点も講師に助言。

見通しOK

学習者（依頼者）の状況

環境学習ってどうやってやるのか分からない。
講師は誰に頼めばいいのだろう。
どうやれば効果的な環境学習ができるのだろう。

学習者（依頼者・講師）の反応

（依頼者）
「緑のカーテン講座の講師を紹介してほしい。」
「ピオトープや水に関する環境学習及び環境学習の進め方のアドバイスをもらえる講師を紹介してほしい。」
「高校生が興味を持てるような内容の環境問題の授業を実施したい。」

（依頼者の反応）
「こちらが望んでいたテーマに対する講師を紹介いただいた。」
「児童の今までの学習を踏まえた内容にしていたのがよかった。」

（依頼者の反応）
「一学期から継続的に連絡調整をしてくださり、本当に心強くありがたかった。こちらの要望（今までの学習内容や児童の実態）を丁寧に聞き取り、適した講師を紹介してくださり、児童にとってよい学びにつながった。」
（講師の反応）
「授業の総まとめとして、講義させていただいたので、子供たちの反応が良くてやりやすかった。」

成果指標

県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習につなげることができたか。

学習の効果&主に育まれる力（取組の効果）

どのような講師を紹介してもらえるのか、どのような授業が作れるのか、何をしてもらえるのかイメージしやすくなり、コーディネーターへの相談がしやすくなった。

コーディネーターの持つ幅広いネットワークから学習内容に適した外部講師や活動場所を選定することができた。

事前・事後の学習の実施や他の教科との連携を図ることで、より効果的な環境学習とすることができた。
相談者の希望する学習内容と外部講師の持つプログラムの調整ができた。
事前に依頼者の希望を聞くことで、講師が安心して授業に臨むことができた。

4 講師を派遣し、環境学習を実施 ふり返し、改善提案の実施

コーディネーターが学習当日に立ち会い、講師と共にふり返しを行い、事後学習の提案やプログラム改善の提案を実施。事後学習として、どうしたら学習したことを生活の中で行動につなげられるのか、グループワーク等で話し合う時間を設けるなどの提案を実施。

♡ 驚き・感動

♡ 本物体験

♡ 成果実感

(依頼者の反応)
「私たちにできること」資源・環境を大切にするために、学校で取り組めることを考えていきたい。

(講師の反応)
「毎回子供さんからの温かいお手紙をいただき、大変励みになる。このように対応頂ける学校の姿勢に、大変好意を持ち、また是非ご協力したいという気持ちになる。」

振り返りにより、事後学習やプログラム改善の提案をすることで、より効果的な環境学習につなげることができた。



令和4年度環境学習コーディネート事業

- ・あいち環境学習プラザに窓口を設け、環境学習の連携・協働に関する相談業務や連携・協働先の紹介・マッチング等のコーディネート業務を実施。



学習者の変容

【依頼者へのアンケート結果より】

- ・地球温暖化を防ぐのは、1人1人の小さな取組からというメッセージを受け、緑のカーテンという1つの取り組みから、地球温暖化防止という大きな課題への取組の視点及び意識の移動が見られた。
- ・普段の生活の中で意識が変わった。
- ・ビオトープの良さについて改めて感じられた。

【講師へのアンケート結果より】

- ・小学生に接する機会を頂けたことで、スキルアップにつながった。
- ・〇〇業界と初めての協働で新しい発見があった。

成果と課題

【成果】

- ・学校における環境学習の機会の増加に加え、環境学習講師等のノウハウの有効活用を図ることができ、環境学習の幅が広がった。
- ・児童の意識が変わり、真剣に環境問題に取り組むなど効果的な学習につなげることができた。
- ・教育委員会、AEL ネット協議会、市町村、図書館等でチラシを配布したことにより、令和3年度とは違う団体からの依頼も多く、より多くの方に本事業をご活用いただいた。

【課題】

- ・依頼者からの授業内容や講師及び施設等に対する要望は様々であるため、紹介する講師の人数を増やす必要がある。